



小澤征爾 ©Shintaro Shiratori



水戸室内管弦楽団 第83回定期演奏会より



ナタリー・シュトゥッツマン ©Simon Fouler

FOCUS

1.17 [金] 19 [日] 水戸室内管弦楽団第89回定期演奏会 吉田秀和 生誕100年記念コンサートー4 小澤征爾とシュトゥッツマン、2人の指揮者とMCOの再会

文 篠田大基

我らがマエストロ・小澤征爾が、水戸室内管弦楽団（MCO）の仲間たちと、2年ぶりに水戸芸術館コンサートホールATMの舞台に立ちます。2014年1月17、19日（金、日）に開催するMCO第89回定期演奏会。2013年7月から始まった「吉田秀和 生誕100年記念コンサート」の最後を飾る演奏会です。

小澤さんは、2012年1月のMCO第83回定期演奏会の後、音楽活動を休止して休養に専念していましたが、順調に体力を回復し、2013年4月には、吉田秀和氏の遺志を継いで水戸芸術館館長とMCO総監督に就任。7月にサントリーホールで開催したMCOの東京公演では、亡くなったMCOメンバーのヴァイオリニスト・潮田益子さんへの献奏（モーツァルトのディヴェルティメント 二長調 K.136 より第2楽章）を指揮しました。続いて夏に開催された小澤国際室内楽アカデミー奥志賀やサイトウ・キネン・フェスティバル松本などのお元気な仕事ぶりも、マエストロの「復活」を強く印象づけるものでした。そして1月、小澤さんが、また水戸芸術館に帰ってくるのです。

MCO第89回定期演奏会のために小澤さんが選んだ曲は、ベートーヴェンの

交響曲第4番 変ロ長調。それは、かつて小澤さんがMCOとの演奏を予定しながら果たせなかった、いわば「約束の曲」なのでした。MCOは、2008年5月の第72回定期演奏会と、それに続く第3回ヨーロッパ公演で、この作品を取り上げました。その指揮を予定していた小澤さんは、このとき腰椎椎間板ヘルニアのために降板せざるをえず、水戸での定期演奏会には小澤さんに代わって広上淳一さんが指揮、ヨーロッパ公演は指揮者なしで敢行されました（その様子は、本紙2008年8月号や『水戸室内管弦楽団と巡るヨーロッパ音楽紀行』（音楽之友社、2009年）で読むことができます）。そして5年のときを経て、小澤さんはオーケストラの仲間たちと交わした「約束」が、水戸で果たされようとしています。

今回の定期演奏会は2部構成になっています。小澤さん指揮のベートーヴェンは第2部にあたり、第1部の指揮をナタリー・シュトゥッツマンさんが務めます。シュトゥッツマンさんといえば、世界的なコントラルト歌手であり、MCOとは1997年の第30回定期演奏会（ラヴェル〈博物誌〉指揮：若杉弘）、2002年の第52回定期演奏会（ヴァーグナー〈ヴェーゼンドク歌曲集〉指揮：

若杉弘）、2008年の第74回定期演奏会（ヴィヴァルディ〈スターバト・マーテル〉指揮者なし）の3回にわたる共演で、好評を博してきました。また親しい友人でもある小澤さんからの指導を受けて、近年は指揮者としての活動も充実させています。今回の定期演奏会では、シュトゥッツマンさんは、独唱者としてではなく、指揮者としてMCOと音楽を作り上げます。

シュトゥッツマンさんが、今回の定期演奏会のために選んだのは、ロマン派を代表する作曲家メンデルスゾーンの2作品——序曲〈フィンガルの洞窟〉と交響曲第4番 イ長調〈イタリア〉。歌心のほとばしるタクトさばきに、ぜひご注目ください。

プログラムの聴きどころを紹介！

メンデルスゾーン：

序曲〈フィンガルの洞窟〉作品26

原題は“Die Hebriden”（ヘブリディーズ諸島）。スコットランド西岸に浮かぶ島々の名前です。メンデルスゾーンは20歳の頃にこの地を訪れました。その旅に同行した友人は、ヘブリディーズ諸島を次のように描写しています。「大西洋は荒々しさを増すことで、ぼくたちにそ

の触手を伸ばし、所かまわず打ちのめす……」(三橋圭介訳)。その荒涼とした海と島の風景を描いたのがこの作品です。

メンデルスゾーン：
交響曲 第4番 イ長調 作品90 (イタリア)

前曲とは一転して、地中海の陽光を思わせる明るい音楽で始まります。序曲〈フィンガルの洞窟〉や有名な交響曲第3番〈スコットランド〉の着想を得たイギリス旅行の後にメンデルスゾーンが旅したイタリアの印象をまとめた作品です。第2・3楽章の朗々とした歌謡風の旋律には、歌手でもあるシュトゥツマンさ

んの本領が発揮されることでしょう。

ベートーヴェン：
交響曲 第4番 変ロ長調 作品60

ベートーヴェンが、この〈第4番〉を、続く〈第5番〉(運命)や〈第6番〉(田園)と同時に並行で書き進めていた、という事実には誰もが驚くことでしょう。ベートーヴェンの創作意欲がみなぎる、まさに「傑作の森」と呼ばれる時代の作品です。〈第4番〉は楽器編成の点では比較的小さいものの、それだけにMCOの瞬発力や機動力が活きる作品とも言えます。ヨーロッパ公演ではMCOが指揮

者なしで演奏しきったこの作品に、小澤さんが信頼の厚い仲間たちと改めて取り組みます。しなやかで濃密なアンサンブルをご堪能ください。

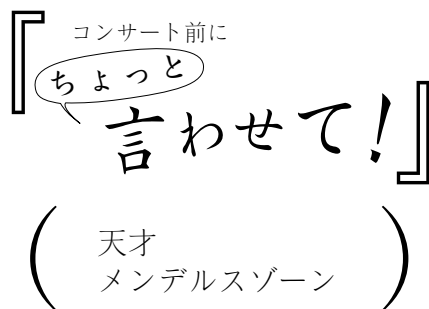
吉田秀和 生誕100年記念コンサートIV
水戸室内管弦楽団
第89回定期演奏会

1/17 (金) 19:00 開演 (18:30 開場)

1/19 (日) 14:00 開演 (13:30 開場)

会場 水戸芸術館コンサートホール ATM
全席指定 S席 15,000円
A席 12,500円 B席 10,000円

曲目
【第1部】 ナタリー・シュトゥツマン (指揮)
メンデルスゾーン：序曲〈フィンガルの洞窟〉作品26、交響曲第4番 イ長調 作品90 (イタリア)
【第2部】 小澤征爾 (指揮)
ベートーヴェン：交響曲 第4番 変ロ長調 作品60



メンデルスゾーンは天才だ! と、あけすけな書き出しで、久しぶりのこのコーナーを始めてしまうのだが、心底そう思う。フェリクス・メンデルスゾーン (1809~47) が、作曲を学び始めたのは10歳のとき、現存する最初の作品は11歳の頃のものというから、他の大作曲家と比べて、とりたてて早いわけではない。けれども彼が13歳から16歳の間に書いた3つの〈ピアノ四重奏曲〉作品1~3——最初に出版された3つの作品——を聴いてみると、その大人びた感性に、これが少年の作品かと呆気にとられてしまう。モーツァルトに引けをとらない早熟ぶりなのである。

そんなことを考えていたのは1年半ほど前のこと。彼の〈クラリネット・ソナタ 変ホ長調〉の楽譜を読んでいたときだった。先述の3つの〈ピアノ四重奏曲〉と同時期の、彼が15歳の頃に書いた作品である。第1楽章のゆったりとした序奏は、変ホ長調からハ短調を経て変ロ長調に向かう味わい深い旋律。それに続いてソナタ形式の主体が始まるのだが、その快活な第1主題は、一見、序奏とは関連がないようでありながら、実は、序奏と同じ転調構造で作られて

いる……! この作曲家は、ひとつの和声進行から色々な旋律が、きっと泉のようにあふれ出てくる人だったのだろう。それでいて、彼の自筆譜を見れば、彼は、楽譜の片隅に「うまくいきますように、神様!」と書き付けるような、健気で誠実な一面を持った人であったことも、また分かる。

メンデルスゾーンといえば、沢山の曲を苦もなく生み出した優等生的な作曲家という印象を持たれがちである。たしかに彼は多作家だった。作品番号付きの交響曲は5曲しかないが、その5つの交響曲を作曲する前に、彼は弦楽合奏のための小規模な交響曲を13曲書いている。これを加えれば、ロマン派の時代としては間違いなく多作の部類に入る。しかし決して粗製乱造ではない。大編成の交響曲に向けた準備としては、弦楽のみの交響曲を13曲書いたと考えれば、彼は慎重な性格だったのではないかと思われる——次々と楽想が湧き上がるからこそ、なおさら慎重に作品に取り組んだのかもしれない。

メンデルスゾーンは、一度完成された作品に対しても、しばしば大幅な書き直しを行ったことが知られている。水戸室内管弦楽団第89回定期演奏会で演奏される序曲〈フィンガルの洞窟〉も、交響曲第4番〈イタリア〉も、そうした呻吟の末の作である。メンデルスゾーンが〈フィンガル

の洞窟〉の着想を得たのは、1829年の旅の途中。家族に送った手紙にその主題が記されている。その後1年をかけてこの序曲は書き上げられたが、彼はその出来に満足せず、さらに2年をかけて別のヴァージョンが作られ、それが今日知られる姿となった。〈イタリア〉交響曲は、1830年から翌年にかけてのイタリア旅行で着想を得て書き始められ、1833年に完成。しかし1835年と1837年に大幅な改訂が加えられている。どうやらそれでも彼は不満だったらしく、生前にこの曲の楽譜が出版されることはなかった。改訂ヴァージョンの初演は作曲者の死後の1849年、楽譜の出版は1851年。それが今日、メンデルスゾーンの作品のなかでも特に人気の高い1曲になっているわけだ。

ひとつの旋律、ひとつの作品。その背後には様々な習作や別のヴァージョンがある。芸術作品は、まるで、様々な解答があり得るひとつの問いのようでもあり、私たちが聴くのは、その解答のひとつでしかないとも思える。作曲家は様々な解答の可能性を探り、最良と思われる解答を楽譜に記す。メンデルスゾーンは、沢山の解答を見つける才能と、より良い解答を選び抜く粘り強さを兼ね備えた人だった。だからこそ、天才だと思うのである。《篠田》

2013.11.5

内田光子 ピアノ・リサイタル

世界中の聴衆から絶大な支持を受けている、現代最高峰のピアニストのひとり、内田光子のピアノ・リサイタル。水戸芸術館では、2011年に引き続き2回目のリサイタルとなるが、その内田さんの再訪を望まれた吉田秀和前館長の「生誕100年記念コンサート」シリーズの一環として開催した。今回も、内田さんが日本公演のために選定されたピアノが運び込まれ、内田さんと共に世界中のホールを巡っているピアノ技術者のジョージ・アンマン氏が同行した。プログラムは、J.S. バッハとシェーンベルク作品、そしてシューマンの〈森の情景〉、〈ピアノ・ソナタ第2番〉、〈暁の歌〉の3作品。アンコール曲は、ベートーヴェンの〈ピアノ・ソナタ第14番“月光”〉作品17の2から第1楽章。シューマン晩年の「曙光」の音楽の後に、稀代のピアニストは「月光」を奏でた。時の円環が完成し、永遠の扉が開かれようとしていた。《中村》アンケートから■内田光子さん得意のレパートリーであるシューマンがたっぷり聴けて、至福の時を過ごしました。前館長が絶賛したように、内田光子氏が現代最高のピアニストであることが、今夜の演奏で納得した気がします。(水戸市：T.M.さん) ■内田光子さんのリサイタルを水戸で聴ける幸せを感じています。(無記名の方) ■吉田秀和さんが今夜もいつもの場所(座席)に聴きにいらっしやっている様な気がしてました。お姿が目に見えます。(無記名の方)

2013.11.9

茨城の名手・名歌手たち 第23回

4月のオーディション(鍵盤楽器・弦楽器・邦楽器・邦楽アンサンブル部門)に合格した演奏家たちによるコンサートを開催しました。司会は、審査委員長も務めた当館音楽部門企画運営顧問の池辺晋一郎さん。「作曲していると、やりたいことの1/10しか楽譜に書けない。あとの9/10は演奏家が創りあげるもの。ぜひそれぞれの個性を楽しんでほしい」と、作曲家ならではの視点で聴きどころを紹介してくださいました。出演は、ピアノの秋山結菜さん、鈴木菜穂さん、和田絢子さん、渡邊真亜子さん、中村ひとみさん、澤辺明音さん、ヴァイオリンの高橋尚子さん、野口わかかなさん、箏の中島裕康さん。緊張感漂う中、想いのこもった表情豊かな演奏が次々と披露され、音楽家としてこれから道を切り拓こうとする若き名手たちの勢いが感じられました。皆さんのさらなる活躍をお祈りしています!《高巣》アンケートから■池辺先生のお話がすばらしく、出演者からもたくさん刺激をいただき、

充実した時間となりました。同じピアノとホールでも、奏者によって音の響き方、届き方が大きく違うことがわかりました。(那珂市の方) ■若手の演奏家を育てる良い企画だと思うので、今後も続けてほしい。(牛久市の方) ■演奏者の成長した姿にとても感動しました。(笠間市の方) ■はじめて公演を聴き、とても楽しかったです。私はヴァイオリンをやっているのですが、んばりたいと思います。(日立市：M.M.さん)

2013.11.16

仙波和音 ピアノ・リサイタル

牛久市出身でポーランドのシヨパン音楽院に留学し、現在はスイスでさらなる研鑽を積む仙波和音さん。一時帰国して臨んだ今回のリサイタルの副題は、「『故郷へ』～想いを込めて～」。ポーランド留学中に深く学んだシマノフスキとシヨパンをプログラムの柱に、その豊かな音楽性が、巧みな音のコントロールによるクリアなサウンドで伝えられました。アンコールは、ハイドン〈ピアノ・ソナタハ長調〉Hob.XVI-50より第2楽章。《篠田》アンケートから■一つ一つの音の粒立ちが良く、速いパッセージでも破綻することなく、美しく響かせていたことが印象的でした。(水戸市：F.U.さん) ■シヨパンの完成度が高い。すばらしかった。(牛久市の方) ■若い演奏者の洗礼として、しかも正確なピアノが聴けて嬉しかった。またの来演を望みます。(牛久市の方) ■茨城出身の演奏家による演奏会は後輩の励みになると思います。これからも頑張ってください。(水戸市の方)

2013.11.24

井上修 ピアノ・リサイタル

石岡市在住の井上修さんによる4度目のリサイタル。前半はシヨパンとリスト、後半はスクリャービン初期の作品が取り上げられ、各作曲家の類似性や独創性が際立つ曲目が選ばれた。繊細な美しさからドラマティックな華やかさまで幅広い表現力を持つ井上さん。それぞれの音楽世界に深く入り込んだ求心力のある演奏に、熱い拍手が贈られた。アンコールは小林秀雄〈落葉松〉。《高巣》アンケートから■全曲素晴らしかったが、リスト〈ダンテを読んで〉は、井上さんが作曲家と一体化したような演奏で大変感動した。(土浦市の方) ■スクリャービンの曲はどれも美しく伸び伸びと演奏され、心に響いた。(水戸市の方) ■〈ダンテを読んで〉は、地獄のうなり声のような不条理感がよくでていた。井上さんの演奏会は掘り出し物のような名曲が聴けるのも一つの楽しみ。(石岡市の方) ■音色がとてもなめらかで雄大で素敵でした。これからも良い音楽を聞かせてください。(水戸市の方)



1-2：内田光子 ピアノ・リサイタル
3-4：茨城の名手・名歌手たち 第23回
5：仙波和音 ピアノ・リサイタル
6：井上修 ピアノ・リサイタル

チケット・インフォメーション

《12月21日(土) 発売分》

- 合唱セミナー 2014 (講師: 田中信昭)
2014年2/16(日) 10:00開始(16:00終了予定)
料金 [全席自由] 一般 ¥1,300 / 高校生 ¥800 / 中学生以下 ¥600
- 柴草幹男 フルート・リサイタル
2014年3/16(日) 14:00開演
料金 [全席自由] 一般 ¥3,000 / 学生 ¥1,000
- ちょっとお昼にクラシック 森麻季 (ソプラノ)
2014年3/22(土) 13:30開演
料金 [全席指定] ¥1,500 (1ドリンク付き)
- Duo la Bilancia ピアノデュオ・リサイタル
2014年3/30(日) 15:00開演
料金 [全席自由] 一般 ¥3,000 / 学生 ¥1,500

これからの演奏会・残席情報

○…残席あり (20席以上) △…残席わずか (20席未満) ×…残席なし
中央…中央ブロック 左右…裏…左右ブロックおよびステージ裏 補助…補助席

- ◎クリスマス・プレゼント・コンサート 2013
……………12/23(月・祝) 中央×、左右○
- ◎アンサンブル奏 コンサート
……………2014年2/2(日) 自由席○
- ◎兼氏規雄 クラリネット・リサイタル
……………2014年2/11(火・祝) 自由席○
- ◎ちょっとお昼にクラシック 佐藤俊介&鈴木優人
……………2014年2/28(金) 中央○、左右○

※11/27(水) 現在の状況です。
※公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問い合わせください。
※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

水戸芸術館の主な1月のスケジュール

コンサートホール ATM

- 水戸室内管弦楽団 第89回定期演奏会
(指揮: 小澤征爾、ナタリー・シュトゥッツマン)
2014年1/17(金) 19:00開演、1/19(日) 14:00開演
料金 [全席指定] S席 ¥15,000 / A席 ¥12,500 / B席 ¥10,000

エントランスホール

- パイプオルガン プロムナード・コンサート
2014年1/5(日) 龍田優美子、25(土) 木下啓香
12:00 ~ / 13:30 ~ (各回30分程度) 入場無料

ACM 劇場

- 風間杜夫の会 寄席日和
2014年1/11(土) 13:30開演
料金 [全席指定] S席 ¥4,000 / A席 ¥3,500 / B席 ¥3,000
- 水戸室内管弦楽団 大スクリーン・コンサート
2014年1/17(金) 19:00開演(18:15開場)
入場無料 定員: 300名(先着順・事前申込み不要)
- 未来サポートプロジェクト Vol.1 息子たち
茨城出身のフレッシュな俳優の未来を応援するプロジェクト第一弾!
オーディションで選ばれた若手アーティストの挑戦をお楽しみください!!
2014年1/25(土)17:00開演、26(日)13:00開演、31(金)19:00開演、
2/1(土) 13:00 / 17:00開演、2(日) 13:00開演
料金 [全席指定] 前売り: 一般 ¥3,000 / 25歳以下 ¥2,500
/ 高校生以下 ¥2,000 当日: ¥3,300 (一律)

現代美術ギャラリー

- ダレン・アーモンド 追考
11/16(土) ~ 2014年2/2(日) 9:30 ~ 18:00 ※入場は17:30まで
[休館日] 月曜日、12/24(火)、年末年始 12/27(金) ~ 1/3(金)、1/14(火)
※ただし12/23(月・祝)、1/13(月・祝) は開館
[入場料] 一般 ¥800 / 前売り・団体 (20名以上) ¥600
※中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付添いの方1名は無料
- クリテリウム 88 佐藤志保 ※料金は展示会の入場料に含まれます。

茨城の主な1月の演奏会

- 佐川文庫 TEL / 029(309)5020
・石田成香 ピアノ・リサイタル 2014年1/25(土) 18:00開演
- 日立シビックセンター (音楽ホール) TEL / 0294(24)7720
・第18回ニューイヤーオペラコンサート
2014年1/12(日) 14:00開演
- ノバホール TEL / 029(852)5881
・つくばオペラ第二回公演 歌劇 夕鶴 2014年1/12(日) 14:00開演
・プリマ・ヴィスタ 弦楽四重奏団 2014年1/19(日) 14:00開演

チケットに関するお問い合わせ

- 水戸芸術館チケット予約センター TEL 029-231-8000
営業時間: 9:30 ~ 18:00 (月曜休館)
- 公演内容や企画に関するお問い合わせ
水戸芸術館音楽部門 TEL 029-227-8118
- ホームページ <http://arttowermito.or.jp/>
- 公式ブログ <http://concerthallatm.blog101.fc2.com/>
- ATM 便り 毎月1回茨城新聞に不定期登場
- twitter @ConcertHall_ATM

編集後記

歩 いていると、なぜか、よく、人に道を尋ねられます。知らない場所や、うる覚えの場所を聞かれると非常に心苦しい。昨日はついに英語で質問されてしまいました。皆さんが無事に目的地にたどり着けていますように。(り)

来 た! 年明けだ! 今年はどんな年になるだろう。2013年、周りは結婚ラッシュ。計8組の親戚・友人が入籍し、内5組の式に参加した。そして早4人からお目出度い報告が。2014年は出産ラッシュを迎えそうだ。(og)

男 性指揮者は「マエストロ」。女性指揮者は、文法的には「マエストラ」のはずだけど、一般的ではないらしい。今や沢山の女性指揮者が活躍する時代なのに。シュトゥッツマンさんを何とお呼びしようかと考えている。(篠)

あ まりテレビは見ないから流行の芸能ネタなどに減法弱い。それを一気に解消するのが年末年始だ。普段自分にはきつい番組が許せてしまう。紅白も審査員になったつもりで個々に採点していくと、あっという間に年越し。(て)

た だいま「市民のためのオルガン講座」開講中。パイプオルガンを弾くのが夢だったという幅広い世代の皆さん、真剣かつ楽しそうに学んでいる様子が清々しい! さあ新しい一年、私はどんなチャレンジをしようか。(樹)

過 ぎゆく1年を振り返ることもなく、新年を前に志を立てることもなく、ここ数年は追いまわられるように年の瀬が過ぎて行った。大晦日の晩から翌朝にかけて年賀状を書くような真似から、まずはあらためたい。(中)

水戸芸術館音楽紙 [ヴィーヴォ]
2014年1月発行 第183号
編集発行: 水戸芸術館音楽部門
〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8
TEL 029-227-8118 FAX 029-227-8130
E-MAIL ankmr@arttowermito.or.jp
URL <http://arttowermito.or.jp/>
編集: 水戸芸術館音楽部門 (五十音順) / 石井亮子
大金絢子 篠田大基 関根哲也 高巢真樹 中村晃
デザイン: 大金絢子
印刷所: 山三印刷株式会社